

短期集中連載

キンちゃんのRWC2023 フランス見聞録

構成◎木村卓二

美酒美食に浸る。

□世界屈指の美食大国フランス。トゥールーズには、美酒美食を堪能しつつ、現地のラグビー熱を感じることができる店も数多い。初めてワールドラグビーの世界ランキング1位に躍進し、W杯初優勝を狙うフランス代表、そのSOロマン・タマックが共同経営に参画するレストラン「Maison Good」も、その1つだ。フランス選手権TOP14プレーオフを間近に控えたタマック本人が、キンちゃんを迎えてくれた。

均

「若者から年配の方まで、誰でも入りやすいお店です。食事も美味しいし、カフェとして、気軽に使うこともできると思います」

フランス代表SOロマン・タマックとキンちゃん。共同経営に参画するレストランの前で
Maison Good
30 Boulevard Maréchal Leclerc, 31000 Toulouse
www.maisongoodtoulouse.com

□店はカジュアルでスマート、といったところだろうか。親近感を感じさせる柔らかい雰囲気と、洗練された料理と内装とが共存している。

均

「最初に見た時は、どこにでもいそうな青年という印象でした(笑)。それはともかく、さすがトップ選手。ファンを大切にしていることが、良く伝わってきます。柔らかい雰囲気、親近感を感じました」



サンセルナン大聖堂

ライトアップされたキャピトル広場



「Maison Good」の店内

2023

RWC2023トゥールーズ会場開催試合

- 9月10日 ジャパンvsチリ
- 9月15日 ニューゼalandvsナミビア
- 9月23日 ジョージアvs最終予選勝者
- 9月28日 ジャパンvsサモア
- 10月8日 フィジーvs最終予選勝者

◆取材協力

フランス観光開発機構 jp.france.fr/ja
トゥールーズ観光局 www.toulouse-tourisme.com
オクシタニー地方観光局 www.tourisme-occitanie.com
東芝ブレイブルーパス東京 www.bravelupus.com

日本の2試合の会場にして、ベースキャンプ地でもあるトゥールーズ。フランス代表が多くの時間を過ごすこの街、日本から数多くのサポーターが訪れることが期待されている。

「日本から、大勢のファンの方々がトゥールーズを訪れて欲しいと思います。是非、皆さんの声援で、日本代表の背中を押してください」(キンちゃん)。ラグビーの街での観戦と観光。このW杯、是非トゥールーズを訪れたい。

□組織委員会が選定した、9人の試合会場ディレクターと2人の特命責任者が任に当たっているが、そのうち4人が元選手で、トゥールーズ担当のセドリック・コルもその1人。2008年にフランス大学選抜の一員として来日し、三上正貴、伊藤鐘史、リーチマイケル、山田章仁ら、のちの2015年W杯組が名を連ねた日本選抜との試合に、FBとして出場している。

□インターンシップや社会的統合の推進など、様々なレガシープログラムが採り入れられる今大会。元選手を起用する人事からも、組織委員会の将来を見据えた戦略が垣間見える。

あと約1年。ラグビーW杯2023年フランス大会が幕を開ける。緊張と興奮のカウントダウンが進む中、元日本代表のレジェンドが、現地視察に赴いた。日本代表最多キャップ98、東芝ブレイブルーパス東京アンバサダーの大野均さん、「キンちゃん」だ。観戦と観光の参考に、ジャパンのプール戦会場3都市を紹介する本連載、第1回目は「ラグビーの街」トゥールーズへ。



ナビゲーターの大野均さん。日本代表キャップ98を持つレジェンド。現在、東芝ブレイブルーパス東京のアンバサダーを務めている。

第1回 トゥールーズ編



トゥールーズの街並み



空港にあるスタッドゥ・トゥールーズのオフィシャルショップ

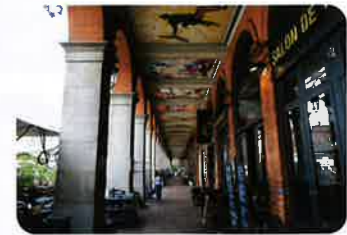


ヴィクトル・ユーゴー市場
Marché Victor Hugo
<https://www.marche-victor-hugo.fr>

2023年W杯、ジャパンのプール第1戦と第3戦の会場となる、フランス南西部オクシタニー地方の首府、オートガロンヌ県の県庁所在地トゥールーズ。ユネスコ世界遺産のサンセルナン大聖堂を始め、赤褐色のレンガ造りの建築物が連なり、「バラ色の街」と呼ばれている。キンちゃんにとっても思い出深い場所だ。

「私自身にとって初めてのW杯となった2007年大会、トゥールーズでフィジーと戦いました。終盤はスタジアム中に『ジャポン!』コールが響き、日本代表の背中を押してくれました。惜しくも4点差で敗れてしまいましたが、オフだった試合翌日、リラックスして街へ出てみると、街中の人が試合を讃えてくれ、温かく迎えてくれました」

トゥールーズっ子たちは、好プレーとは何か、良くわかっている。トゥールーズは、フランスを代表する「ラグビーの街」なのだ。そのことは、空港に降り立った瞬間から伝わってくる。航空宇宙産業の街として知られるトゥールーズの顔でもあるその空港には、地元のクラブ、スタッドゥ・トゥールーズのオフィシャルショップが並ぶ。一般の土産物店に市の紋章入りのラグビーボールが陳列されているほどだ。



キャピトル広場付近にはレストランや露店市が並ぶ

バラ色の街、ラグビーの街。

均

「トゥールーズには、歴史を感じる建造物が多く、それらが人々の暮らしに溶け込んでいます。街に緩やかな時間が流れていて、とても心地良く感じます」



□街の中心に位置するキャピトル広場にも、ラグビーの熱気が渦を巻く。市庁舎がそびえ立ち、1843年創業と伝えられるブラスリー「ル・ピバン」などのレストランやカフェが並び、露店の市も軒を連ね、洗練された雰囲気と活気が共存するこの広場は、重要な試合の日にサポーターが大集まる場所でもある。

時にパブリックビューイングが開催されることもあれば、スタッドゥ・トゥールーズが優勝の際は、市庁舎のバルコニーから選手たちがサポーターに挨拶することも。なお、スタッドゥ・トゥールーズは、現在のTOP14、フランス選手権で、史上最多21回の優勝を達成している。

□すみれの産地でもあるトゥールーズ。香水、紅茶、お菓子など、すみれを使用した、様々な製品が作られているが、場内にもすみれ色があしらわれている。配色、構造、距離、これらがいま、良い雰囲気が醸し出されている。

2007年のW杯時、トゥールーズにてフィジーと戦った時のキンちゃん



Getty Images



2008年にフランス大学選抜の一員として来日したことがあるセドリック・コルさん

熱戦の舞台となる
スタジアム・ドゥ・トゥールーズ



熱戦のスタジアム。

W杯の会場となるのは、スタッドゥ・トゥールーズンがホームゲームを戦うエルネスト・ワロンではなく、ガロンヌ川の中州に位置する、市所有のスタジアム・ドゥ・トゥールーズ。公共交通機関の利用で、空港からは1時間弱、鉄道駅からは30分程度でアクセス可能。サッカーのトゥールーズFCが間借りする格好となっているこの競技場、サッカーの聖地、イングランドのウェンブリー・スタジアムと似ていることから、「プチ・ウェンブリー」と呼ばれることもある。

均

「自分は割と汗っかきなので、夏場だと1試合で体重が4、5%減るのは当たり前でしたが、試合後に動けなくなって点滴を受けたのは、2007年W杯フィジー戦が初めてでした。あの時は6%減ってしまいました。それでも勝てず、W杯の厳しさを思い知らされたのが、このスタジアムです」

現役時代、献身的に体を張り続け、試合後には最高で8%体重が減っていたキンちゃんだが、初めて医療処置を受けたのは、他ならぬこのスタジアムだ。